

LET

Faculty of Letters,
Kobe University 2027

文学部への好奇心をアップする情報紙

神戸大学文学部ホームページ

<https://www.lit.kobe-u.ac.jp/>— オックスフォード大学の
学生たちとの交流に触れながら新しい経験と
出会いへの誘い

こんにちは。私は文学部教員の原口剛です。私は長らく大阪の「ドヤ街」として知られる釜ヶ崎という街の成り立ちや、野宿生活者のコミュニティについて研究してきました。いわば、もともと貧しい者、虐げられた者の立場から都市を考える、ということをやってきたわけです。そのような調査経験を踏まえて、いまは地理学の理論的研究に取り組んでいます。とくに私が取り組んでいるのは、「ラディカル地理学」と呼ばれる理論分野です。日本ではよく「ラディカル (radical)」を「過激」と訳す場面がみられますが、これはまったくの誤りで、「過激」に相当するのはextremeです。「ラディカル」には「根本的」という意味があるんですね。つまり、この世界で起きている不正を「そもそも」の視点から問い、考えるというのが「ラディカル地理学」のキモなのです。たとえば「ホームレス問題」であれば、「ホームレスをいかに包摂するか」と考える前に、「なぜ一方には空き家がたくさんあるのに、他方では屋根をもてない人が生み出されてしまうのか」といったふうに問うような姿勢です。そんな問題意識をもちながら、さまざまな土地をたずね、その土地に生き、人びとと対話しながら学ぶ経験を、学生たちといっしょに積み重ねています。

つい前置きが長くなってしまいましたが、私は現



広島でのグローバル・アクティブ・ラーニングにて

在、「神戸オックスフォード日本学プログラム (Kobe-Oxford Japanese Studies Program)」という事業 (普段はKOJSPと略しています) のボード長を務めています。KOJSPは、オックスフォード大学のアジア中東学部で日本学を専攻する2年生全員 (毎年10人程度) を神戸大学文学部が受け入れ、学生たちが丸々一年間を神戸で過ごし教育を受けるというプログラムです。2012年に始まったこのプログラムでは、これまで100人以上の学生が神戸の地を踏み、この街でのさまざまな経験を携えてオックスフォードへと戻っていきました。

彼女ら・彼らが神戸大学文学部で行う勉強の柱は二つです。一つはやはり「日本語」です。学生たちは、日常生活における日本語の会話能力はもちろん、学術的なレベルで求められる高い次元の読み書きや口頭での議論の能力を、午前中に行われる特別授業で学びます。これらを一年間こなすのは大変な作業でしょうけれども、それだけに、カリキュラムを終える頃には学生たちは私たち教員も驚くほどに日本語のスキルを向上させて帰国していきます。そして、もう一つの柱は「日本学」です。学生たちは、アニメ、映画、歴史、芸術、文学、祭り、宗教、ファッション、言語など、日本に関するさまざまな事柄に関心をもったことがきっかけでオックスフォード大学の日本学専攻に所属しています (とくに昨年度来日した学生はアニメが好きな人が多くて、彼ら・彼女らのあいだで一番人気なのは『東京喰種』でした)。こうした多種多様な関心を入り口にして、日本文化への視点を広げながら学び深めるために、神戸大学文学部で日本の学生向けに開講されているさまざまな授業や演習 (KOJSP演習といいます) を受講します。また、夏休みに希望する日本の学生がオックスフォード大学に短期留学する「オックスフォード夏季プログラム」という制度も例年好評です。こうしたさまざまな交流は、それ自体楽しいものであると同時に、みなさんが人や世界を見る視野を広げることに繋がるでしょう。

けれどもなにより重要なのは、みなさんと彼女ら・彼らとの交流の経験です。オックスフォードの学生一人一人に関して、希望する日本の学生さんが「チューター」と呼ばれる役目を有償で担い、生活上や学業上の相談に乗ってもらうことになっています。また、

月一回ぐらいの頻度で開催される「インターナショナルアワー」では、日本文化の体験会 (落語、書道、かるたなど) や茶話会など、オックスフォード生を含む世界各国の留学生と日本の学生との交流の場が設けられています。こうしたさまざまな交流は、それ自体楽しいものであると同時に、みなさんが人や世界を見る視野を広げることに繋がります。学外での活動も盛んで、広島でのグローバル・アクティブ・ラーニングでは原爆の被爆者の方の声を耳に傾けました。また、京都国際マンガミュージアムを訪問して学芸員の方のお話を聞いたり、在日コリアンの歴史と文化が根づいた京都・東九条の街を歩いて住民の方と交流したりと、さまざまな場所を訪れ、学びを深めています。そのような経験のなかで、出自をこえた連帯感や一体感が生み出されたりします。

そして、ある意味ではさらに重要なことがあります。それは、「神戸大学文学部は学生たちのさまざまな関心にさまざまな仕方で応じてくれる場である」ということです。オックスフォードの学生たちのそれぞれが、日本にかかわる実にも多種多様な関心をもちつつ神戸を訪れ、文学部においてその関心に応じた研究を発展させてゆくことは先に述べた通りです。このことは、みなさんにも当てはまります。神戸大学文学部は、人間と人間の営みを対象とする学である「人文科学 (humanities)」という括りのもとで、哲学・思想・歴史・言語・文芸・芸術・社会・地理・心と行動といった極めて広範な人間の営みをカバーする15もの専修から構成されています。入学生の多くは、人間や文化に関わるなんらかの (多くの場合漠然とした) 関心を持ちつつ文学部という学部の扉をたたかれることでしょう。神戸大学文学部の50名余りの教員と15の専修は、そうしたみなさん一人一人の「きっかけ」的な関心を受けとめつつ、学術的な問いの発見と探究へと誘います。海の広がる街で、坂の上のキャンパスで、お会いしましょう。

KOJSPアドバイザーボード長
地理学専修
原口 剛

入学から卒業まで

① 専修の決定 — 「よく考えて自分の専門を決めることができる」

文学部には、哲学、文学、史学、知識システム、社会文化という5講座に15の専修があります。1年次の11月末頃に専修を決め、2年生からそれぞれの専修に所属することになります。自分は文学部でなにを研究したいのか、じっくり考えてから選ぶことができます。そのために、各講座ごとのガイダンスとも言える「入門」、人文科学への導入をはかる「人文科学導入演習」、そして各専修での研究の基礎を身につける「人文科学基礎」など、学生の興味・関心に応じて選択できるよう、いくつかの内容に分けて1年生向けの授業が複数開講されています。これらを参考に、自分が進む専門を決定します。

② 文学部の授業科目 — 「四年一貫で学ぶ人文科学の多様な拡がり」

文学部の学生が4年間に学ぶ授業科目は、全学共通授業科目と文学部の専門科目とに分けることができます。全学共通授業科目は、教養科目、外国語科目 (教養科目 (外国語系)、専門科目 (基礎科目の外国語)) などで構成されています。文学部の専門科目は、基礎科目、自由選択科目、卒業論文関連科目、卒業論文からなります。下の図に履修に関する学年ごとの大まかな流れを示します。

1 年	2 年	3 年	4 年
教養科目 (基盤系)	教養科目 (人文系、社会系、自然系、総合系)	専門科目	専門科目
教養科目 (人文系、社会系、自然系、総合系)	外国語科目 (教養科目 (外国語系)、専門科目 (基礎科目の外国語等))		
外国語科目 (教養科目 (外国語系)、専門科目 (基礎科目の外国語等))	専門科目 (基礎科目)		卒業論文

LET Message Box

チン ユウユー
交換留学生(台湾)

神戸での留学生生活は、私にとって「新しい世界に触れる経験」であると同時に、「自分自身を見つめ直す時間」でもありまし

た。もともと私は、人の考え方や感情、そして言葉が人に与える影響に強い興味を持っていました。そのため、日本語を勉強する中でも、単に文法や単語を覚えるだけでなく、日本人特有の価値観やコミュニケーションのあり方について深く知りたいと思うようになりました。

実際に神戸で生活を始めてからは、毎日が新しい発見の連続でした。特に印象的だったのは、人との距離感や気遣いの文化です。日本では、相手に配慮しながら言葉を選ぶ場面が多く、最初は戸惑うこともありましたが、その曖昧さの中にも優しさや思いやりが含まれていることに気づき、日本語という言葉の奥深さを改めて感じました。

神戸大学では、さまざまな国から来た留学生や日本人学生と交流する機会がありました。グループワークや日常会話を通じて、自分の考えを相手に伝える難しさを感じる一方で、「完璧な日本語じゃなくても、伝えたい気持ちがあれば相手はちゃんと聞いてくれる」ということを学びました。以前の私は、自分の話し方や表現に自信が持てず、人前で発言することに緊張することが多かったですが、留学生活を通して少しずつ前向きになれたと思います。

また、日本での生活は、私の価値観にも大きな影響を与えました。忙しい日常の中でも、季節の変化を大切にしたり、小さなことに喜びを見つけたりする日本の文化に触れ、以前よりも周囲を丁寧に見るように

なりました。放課後に友人と散歩したことや、何気ない会話も今では大切な思い出です。

この留学を通して得たものは、日本語能力だけではなく、異なる文化の中で生活することで、自分の弱さや不安とも向き合いながら、少しずつ自分らしい生き方について考えられるようになりました。そして、人との出会いや偶然的瞬間が、人生を豊かにしてくれるのだと実感しています。

神戸で過ごした時間は、これからの人生の中でもきっと特別な意味を持ち続けると思います。日本で出会った人々や経験への感謝を忘れず、これからも新しい世界に触れながら、自分自身について考え続けていきたいです。

松本 和実
留学生チューター

私は台湾からの留学生のチューターを担当しています。彼女が日本での大学生活を安心して送れるよう、学習面から日常生活までサポートを続けています。

この活動に挑戦しようと思った理由は、私自身が経験したオーストリアへの交換留学にあります。言葉も文化も異なる環境での生活は刺激的である反面、想像以上に戸惑うことも多くありました。特に授業の履修登録や各種手続きなどに不安を感じていたとき、周囲の友人が親身に相談に乗ってくれたことが、私にとって最大の救いでした。この経験から「今度は自分が日本に来る留学生の支えになりたい」と強く感じ、チューターに挑戦しました。また、留学を通じて知った異文化交流のワクワク感を、彼女にもぜひ味わってほしいという思いも大きな原動力でした。

活動を進める上で、私が最も大切にしているのは「いつでも安心して頼れる関係づくり」です。こまめに連絡を取り合うことは

もちろん、単に手続きの手伝いをするだけでなく、彼女自身が新しい一歩を踏み出せるような後押しを心掛けました。私自身、留学中に自ら新たなコミュニティへ飛び込んだことで世界が広がった経験があったため、学内のサークルや日本人学生と交流できる場を積極的に紹介し、交友関係を広げるきっかけを作れるようサポートしてきました。彼女の「日本語を上達させたい、たくさんの人と交流したい」という思いを叶えるため、陰から支えました。

日々の交流の中では、おすすめのスポットや関西弁の独特なニュアンスなど、「生きた」日本語や文化について質問を受けることがよくあります。彼女に分かりやすく伝えるプロセスは、私自身が日本の魅力を新鮮な視点で見つめ直すという貴重な機会に

なっています。さらに、台湾の豊かな食生活や多様な価値観、言葉について教えてもらうことで、私自身の視野もぐっと広がりました。

このチューター活動では、言葉や文化の違いを越えて互いに高め合い、学び合うことができる貴重な経験をすることができています。これからも留学生との絆を育みながら、国際交流の輪をさらに広げていきたいと思っています。



オックスフォード大学ハートフォードカレッジ

オックスフォード夏季プログラム

オックスフォード大学 (University of Oxford) のハートフォード・カレッジ (Hertford College) での約2週間の夏季プログラムです。英国の歴史・文化・社会・文学などのトピックに基づいた英語学習を行います。プログラム期間中、参加者はキャンパス内の寮に宿泊し、オックスフォード大学生のRA (Residential Advisor、寮生活アドバイザー) による学習・生活のサポートを受けます。授業後や休日にはRAが企画する課外活動などに参加し、異文化交流を楽しむこともできます。

●**教養科目** 教養科目には、原則として1年次に履修する教養科目・基礎系と、1・2年次に履修する教養科目・人文系、社会系、自然科学、総合系科目があります。人文科学だけでなく社会科学や自然科学についても幅広く現代の教養として身につけ、他分野にまたがる課題を考え協働して解決する力を養います。文学部で人文学の研究を進める上でも、しっかりと学んでおくことが必要です。

●**外国語科目** 外国語科目は、「外国語第Ⅰ」として英語を、「外国語第Ⅱ」として、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のなかからひとつを選び、合わせて2カ国語を学びます。教養科目(外国語系)では英語、及びドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のうちひとつ、専門科目(基礎科目)では教養科目(外国語系)で選択した外国語を履修します。文学部ではこの他に、韓国語、イタリア語、西洋古典語(古代ギリシア語とラテン語)の授業も開講されています。文学部次第で学生はさまざまな言語を独修します。人文学を学ぶ者にとって外国語の習得は必要不可欠です。

●**基礎科目** 基礎科目は、人文学の基礎を学び、専門科目での学修を豊かなものにするための準備を行う科目です。専修決定後は、それぞれの専門を深く考究することになりますが、教養科目や基礎科目は、そのための礎石であり、自分の専門研究に広がりを与えてくれるものです。基礎科目には、各講座の入門、人文学導入演習、人文学基礎などがあります。また、大学生として自立的な学びを促すため、初年次セミナーが用意されています。

●**専門科目** 専門科目は、専門的な講義、演習、実習などからなります。単位制度に基づく大学の授業は、必修科目と選択科目の取得単位数がそれぞれ決められています。必修科目は必ず履修しなければなりません。選択科目は一

定の範囲内から自由に選択できますが、それらは講座ごとに細かく指定されていますので、注意が必要です。また、ひとつひとつの授業の学習を徹底するために、1年間で履修登録できる単位数には上限が定められています。したがって、履修にあたっては、入学後に配布される学生便覧やガイダンスでの説明に従い、各学期の始めに、どの授業を取りたいか、受けなければならないかを十分に考えて、計画的に登録してください。

③ 講義と演習 ―「徹底した少数人教育と課題探究能力の開発」

文学部で高い割合を占める授業科目が、特定のテーマを探究する「特殊講義」と、数人から十数人で行う「演習」、いわゆるゼミです。実験やフィールドワークを含む「実習」も同じく少数人数で行われます。中でも、文献や資料を講読したり、自分で選んだテーマについて研究報告を行い、受講者で議論を戦わせたりする「演習」は、専門分野の研究手法や考え方を習得し、自ら課題を発見し解決する能力を鍛えるうえで大変重要です。

④ 卒業論文

卒業論文は、文学部4年間の学習と研究の結晶です。自分で研究テーマを決め、指導を受けながら、論文作成のための調査や分析も自力で行ないます。これまでに挙げた授業科目から必要な単位数を取得した上で、原則として20,000字(400字詰め原稿用紙で50枚)程度の卒業論文を作成し、口述試験(口頭試問)に合格すれば、卒業となります。

文学部生になったら ― 在学生に聞く ―

大村 芯司

(OHMURA Shinji 2年生)
鳴尾高等学校卒業

1 週間の時間割				
	月	火	水	木
1		国文学特殊講義		西洋史
2	古文書学	生活環境と技術		日本史特殊講義
3	日本史		日本史特殊講義	日本史演習
4	自然地理学			中国語
5			日本国憲法 1	

1年生の間は教養系の科目を主に履修しますが、2年生になると教養系の授業は減って、主に自分の専修の授業を多く履修ようになります。私は日本史学専修なので、日本史関係の授業を多く履修しています。また、高校地歴科の教員免許のための授業も取っているので、少し他の同級生より抱えている授業は多いかもしれません。

ある1日の過ごし方

6 : 30	起床。通学にかかる時間は約1時間ほどなので、1限がある日でもそこまで早起きはしていません。
8 : 50	1限、西洋史。冷戦についての講義です。専修の授業ではないですが、社会科の教員免許の必修科目なので履修しています。専門外の授業なので難しく感じることが多く、丁寧に復習をするようにしています。
10 : 40	2限、日本史特殊講義。院政期の政治史についての講義で、これまでの研究史及び最新の学説について先生が丁寧に説明してくださいます。この授業に限らず、自分が所属する専修で開講されている授業は講義・演習ともに積極的に履修しています。
12 : 10	文学部近くの食堂で昼食をとります。メニューは豊富かつ期間限定のものも多いため、飽きることなく昼食の時間を楽しめています。食後まだ物足りない時は、売店でパンやおにぎりを追加で購入することもあります。
13 : 20	3限、日本史演習。この授業では、各々の受講者が日本古代史の史料に関する発表を行い、それについて教員及び受講者同士で議論を行います。2年生の私にはまだ難しいことばかりですが、先輩の方々のご意見を聞きながら見識を深められる有意義な時間です。
15 : 10	4限、中国語。文学部では、1年生の時に全学共通授業科目で選択した第二外国語について、2年生以降にもう半年学修する必要があります。
16 : 40	1年生の時の授業では、基本的な単語や文法についてライティングを中心に学びますが、2年生のこの授業ではペアワークなどを通して主にスピーキングに取り組めます。
18 : 00	4限終了。駅まで歩いて下山します。実家に住んでいるので基本的に夜ご飯は家で食べますが、六甲道駅周辺はラーメン屋が豊富なので、たまに寄っていく時もあります。
24 : 00	帰宅。食後の時間は、次の日以降の授業の予習・復習をしたり、ピアノを弾いたりしています。
24 : 00	就寝。次の日も1限から授業があるので、遅くならないように寝ます。

神戸大学文学部は2年生から専修に分かれるため、1年生の間じつくりどの専修に行くか悩むことができます。この専修決定に関しては、1年生向けに各専修で開講している入門の授業を履修しながら考えていくことが基本です。これらの授業では、各専門分野の知識や研究方法についてその基礎を学ぶことができるとともに、様々な専修の先生方に直接お話を聞くことができるので、よい判断材料になるかと思います。また、入学した時点である程度行きたい専修が決まっている場合でも、これらの授業は他分野の知識・考え方に触れることができるよい機会ですので、是非履修することをおすすめします(ちなみに入門の授業をいくつか履修・習得していないと、そもそも卒業できません)。

2年生になると、各専修別に開講される授業を多くするようになります。専修によって多少差はあるかとは思いますが、1年生に比べれば授業内容が専門的になる分、授業準備に多くの時間が必要になってきます。そのため、1年生の時に単位を多く落としてしまうと後々大変かもしれません。

文学部は卒業のために必要な単位数はあまり多くないので、時間割の自由度は高いです。1年生で外国語系などの必修単位をしっかり修得できれば、2年生以降は全休の日を作ることも十分可能です。私は、授業が少ない日は主に夜までにバイトを入れたり、趣味のピアノや映画鑑賞に没頭したりしています。その他、サークルや部活も頑張ったり、資格取得のために追加で授業を履修したりするなど、とにかく単位取得だけにとらわれず自分のやりたいことにとことん時間が使える環境があることが、文学部の大きな魅力です!

中村 心優

(NAKAMURA Miyu 3年生)
大谷高等学校卒業

(この文章は1年生時のものです)

1 週間の時間割				
	月	火	水	木
1			Academic English Communication	
2	Academic English Literacy	人文学導入演習(英米文学)	健康・スポーツ科学実習基礎	
3	哲学入門	西洋美術史	情報基礎	日本美術史
4	文学入門	フランス語初級	人文学導入演習(芸術学)	フランス語初級
5				美術史資料演習

1年生の授業では、11月末の専修決定に向けて入門系の授業をとることができず。私は幅広く興味を持っていたため、入門系の授業を多くとりました。必修の授業が少なく選択科目が多いため、時間割を自由に組めることは文学部ならではの魅力です。

ある1日の過ごし方

5 : 00	起床。 京都の実家から通学しているため、頑張って早めに起きます。この日は1限からなので早いです。2限からの日はゆっくり起床します。
6 : 00	電車で登校。 登校中は時間があるので、目醒めしつレポート課題を進めたり、本を読んだりしています。六甲駅に着いてからは大学まで歩いて坂を登っていきます。
8 : 50	1限、Academic English Communication リスニングやライティングだけでなくグループワークもあり、授業を通して自然と友達が増えました!
10 : 40	2限、健康・スポーツ科学実習基礎 運動不足になりがちな大学生にとって体育はしんどいけど、ありがたい!科目も選択でき、私はエアロビクスでみんなと楽しく体を動かしています。
12 : 10	館甲第一キャンパスの食堂は混みがちなので、文学部近くの食堂まで移動して昼食をとります。メニューが豊富で飽きずに毎日楽しく友達と昼ご飯を食べています。たまにキッチンカーで昼食やおやつを買うことも。
13 : 20	3限、情報基礎 この授業はオンデマンドで行われるので、学生ラウンジや図書館で早めに課題を終わらせて友達とおしゃべりしながら過ごします。文学部棟には緑がたくさんあるので天気がいい日は中庭の机で課題に取り組むこともあります。
15 : 10	4限、人文学導入演習(芸術学) 前回の授業の質問に先生が答えてくださるの疑問点をなくしながら自身で考え、基礎的な知識と考え方を身につけることができます。
17 : 00	部活。部活を通して文学部はもちろん、他学部の友達もたくさん作ることができました!先輩方も優しく、楽しく活動しています。
19 : 30	下校。部活の友達と話しながら下山します。帰りに大学から見える夜景はとても綺麗なのでぜひ見てほしいです!
22 : 00	帰宅。夜ご飯を食べた後、漫画を読んだりしながらまったり過ごします。
24 : 00	就寝。次の日の授業は3限からなのでゆっくり寝ます。目覚ましは必須です!!

入門系の授業では、各専修について学ぶことができます。私自身、元々どの専修に入るか悩んでいたのですが、この授業を受けるなどの専修も魅力的に感じ、随しくもさらに悩むことになってしまいました。どの専修に入るかすでに決めている人も、他専修の入門が視野を広めるきっかけになるのではないのでしょうか。入学してすぐに行われる新入生歓迎ティーパーティーの場では各専修のことを先生や先輩方に直接聞くことができます。自分の学ぶものをじっくりと決められるのも神戸大学文学部の魅力の一つです。どの授業も一般的な見解にとどまらず、先生独自の見解や発展した内容にも言及されるので、柔軟に思考する面白さを知り、自身で思索を巡らせる時間も多くなるようになりました。元々読書や観劇が趣味でしたが、授業や思索を通して、今までと違う視点から見ることができるようになり、今までに増して没頭しています。

私が大学に入るにあたって一番危惧していたのは友達ができるかという点でした。しかし、文学部では2年次から専修に配属のため、1年次では違う分野に興味を持っている同級生とも言語の授業などを通して知り合う機会が多く、すぐになくさんの友達ができました。もちろん同じ趣味を持った人も多く、ついつい話が盛り上がりてしまうことも……。皆、受験を乗り越えてきたことあり積極的に何事も取り組む友達との姿には毎日刺激をもらっています。

これまでの人生の中でこれほど自由に選択ができる経験も初めてなのでまだまだ慣れないこともたくさんあり、失敗することもあります。様々な経験を通して自身の成長を強く実感しています。私は大学生活の間に部活動、留学、アルバイト、さらに教員免許も取ろうと考えています。やりたいことばかりでなかなか大変ですが、将来の自分を捉えながら毎日楽しみながら一歩一歩進んでいます。神戸大学文学部はやりたいことを見つけ、深く学びたい人にとってうってつけの場所です!

先輩の足跡! 学部時代の思い出、あれこれ

皆さんは大学で何をしたいと考えていますか?私の大学での目標は「視野を広げる」ことでした。そして神戸大学文学部は私のそんな思いに120%応えてくれました。

私はそもそも心理学や農学にも興味があり、それらの学問と教員免許取得が両立できる学校として神戸大学を選んではいたのですが、自分が少数派であるとは思っていたので、ある程度交渉が必要になるだろうと思っていました。しかし、文学部はなんと他の学部の授業も全て卒業単位数に含めており、同級生でも同じく他学部授業を取りに行く人が少なからずいたのです!おかげで何故か文学部で農場経営や、四次元空間について話し合うことができました。また、文学部内でも当然のように国文学の友人が英米文学や哲学などの授業をとり、社会学の友人が国語学の授業をとるとなると他専修の人と交流する機会も多くあったため、互いの研究対象について違う視点からの意見を交換することもしばしばありました。実は、私は常にアルバイトと部活に忙殺されており、定まった勉強の時間を

田上 絢萌
TANOUE Ayame2022年3月卒業
私立四天王寺中学校
常勤講師

取れませんでした。しかし、昼食時や通学路での友人との会話のおかげで気づきやひらめきを得ることができ、中身の詰まった学問をすることができたのではないかと思います。

このような会話を楽しめる友人、授業が多い教職課程を励まし合い乗り切った仲間たち、そして全てを諦めない私を優しく見守って、思考を高めへと導いてくださった教授の方々とお出会ったことは本当に幸いで、4年と思えないほど大幅に成長できた貴重な期間だったと思います。また、大学が山の上にあるというのも、初めはデメリットに思われるかもしれませんが、友達と文句も含め様々な話をしながら足を動かし、景色を楽しむことでストレスは軽減されます。さらに物理的にも広い視野をもつことで、気分が落ち込んでも自分の悩みなんで小さなことだと思えて、以前よりも物事を大きく捉え捨捨選択をすることが上手になった気がしました。それに何よりとてもいい思い出になりますよ!

是非皆さんも、神戸大学文学部で広い世界を体感してみてください!